

富士通アイソテック ベースボールクラブ

FUJITSU

野球で福島を元気に！

第2回富士通アイソテック杯野球大会開催

10月19日、20の2日間、県内の硬式リトルシニアチームを対象とした、第2回富士通アイソテック杯が伊達市の聖光学院高他グラウンドで行われました。20日(日)に決勝リーグを行いました。雨のため途中で打ち切りとなり、福島・いわき・会津の3チームが優勝となりました。大会中、富士通アイソテックベースボールクラブの選手がグラウンド整備等のサポートを行いました。



あいさつする 西牧代表



閉会のあいさつを行う宮木監督



熱戦を繰り広げた試合



グラウンド整備する部員達

■西牧代表コメント■

『無限の利益を信じて』

富士通アイソテックベースボールクラブは昨年、「野球で福島を元気に！」をモットーにチームを立上げ、小・中学生の活動を支援して参りました。これは東日本大震災以降、野球は疎か外で遊ぶ子供達が激減し、多数のチームが活動休止や解散に追い込まれるなど、メンバーの減少に苦慮している様子を見てきたからです。

一方、今年度より各種大会へ参戦し、全日本クラブ野球選手権福島大会に於いて初出場初優勝、更に東北大会へ出場するなどの快挙も達成し、更に全国大会出場を目標に日々練習に励んでいます。

弊社はパソコンやサーバ、プリンタといったIT製品を開発・製造・販売している会社です。これらの製品を日本国内で開発・製造する会社は現在非常に稀ですが、我々は「Made in Japan」に拘ったものづくりを進めています。製品を開発する者、ものづくりする者がすぐそばにいて、「Made in Japan」の製品が身近にあふれている。お客様の意見が直ぐに反映され製品競争力も向上する。また、そんな環境があるからこそ、次の世代の技術者が育ち、匠のものづくりが継承されるのだと確信しています。損益的には大きな利益を計上することは難しいかもしれませんが、私はそこに『無限の利益があると信じて』経営しているところです。

私を育ててくれた野球も一緒だと考えています。小学生・中学生そして高校・大学で活躍する者もいるでしょう。

しかしながら、経験豊富で有望な選手の受け皿が福島にはほとんど無く、企業が保有している社会人硬式野球チームは福島県内にはひとつもありません。軟式の企業チームも他県と比較し極めて少ないのが現状です。

私はそういった野球人の受け皿を広めるため、他のクラブチームや軟式チームを保有する企業と垣根を越えて連携を図り、少しずつでも増やしていきたいと活動しています。野球人の受け皿を増やすことで地域に根付き、次の世代の育成を図っていく、そんな循環型のしくみが出来れば、福島県の野球も一層レベルが向上するものと考えています。

「Made in Japan」への拘り、いまさら硬式野球部を立ち上げるなど、少し時代に逆行した取り組みかもしれませんが、少し変わった会社かもしれませんが、我々は様々な活動を通して地域の皆様に愛される会社、愛されるチームを目指しています。

■宮木監督のコメント■

『応援したくなるチーム』を目指して

昨年度に産声を上げたチームは、今年初めて公式戦に出場することができました。公式戦に出場するまでには、多くの人達から応援の声、募金などを頂き、大変ありがたく感謝致しております。また、試合には数多くの方々方が球場に駆け付けていただき、更に様々な面でサポートを頂き、選手・スタッフ一同深く感謝しております。

チームを立ち上げる前からの目標として、『応援したくなるチーム』を目指して活動してきました。応援したくなるチームとは、大会で良い成績を残すことはもちろんですが、富士通アイソテックで働く皆様、地域の皆様方に存在を認められ、愛されてこそ応援したくなるチームだと思います。

公式戦では全日本クラブ選手権福島県大会にて初出場初優勝を飾り、また東北大会へ出場するなど、多少なりとも皆様に存在が見える形になってきたと思います。

しかし、クラブの選手達の大半が10代の選手で構成され、チームも選手も『応援したくなるチーム』に向けて、やっと歩き始めたばかりです。これからも試合以外の活動にも重点をおき、小・中学生達への野球活性化に一翼担えればと思っています。